

Library Information

図書室からのお知らせ

■本の入荷について

図書室では、新刊本や話題の本など、新しい本を入荷しています。

本のリクエストについても、図書室カウンターにて受け付けています。皆さんの読みたい本や気になる本などがありましたら、お知らせください。

また、お探しの本などがありましたら、お気軽にカウンターにご相談ください。

● 図書室の利用や、図書の検索・リクエストなどについてのお問い合わせ先
町生涯学習センター図書室
☎096-234-2447(内線331)

「想うこと」で生まれる強さと優しさ 西 加奈子著 / 『i (アイ)』



ポプラ社
小説

「この世界にアイは存在しません」。入学式の翌日、数学教師は言った。1人だけ「え」と声を出した、ワイルド曾田アイ。その言葉はアイに衝撃を与え、彼女の胸に居座り続けることになる。ある「奇跡」が起こるまでは…。『サラバ!』で直木賞を受賞した著者が、この作品に込めた強いメッセージに、大きく心揺さぶられる1冊です。

ダジャレ満載のはるやさいたちの遠足 柿田 ゆかり絵 / 『はるやさいのはるやすみ』



ひかりのくに
児童書

畑広場に春がやってきました。タケノコ、アスパラガス、玉ネギ、レタス…春野菜たちが遠足に出発! 「わーい、はるがきたけのこ」、「ひざしがぼかぼか、あったけーの」、「おーい、みんなー、おきてくやさーい」などダジャレや言葉遊び満載で、子どもたちに人気のシリーズ第4弾です。声に出して読んでいただきたい楽しい絵本です。

51歳の夫の最期を支えた妻の手記 竹田 裕子著 / 『-00万回言っても、言い足りないけど』



新潮社
一般書

テレビ、ラジオ番組の名コメントで知られたジャーナリスト・竹田圭吾氏は、すい臓がんと診断を受けてから、わずか2年3か月、51歳で亡くなりました。死の6日前まで仕事に臨む夫を支え続けた妻が、最期の日々をつづった手記です。家族への感謝の手紙を残して逝った夫、深い愛情で寄り添った妻、2人のエピソードが胸に迫ります。

子どもが喜ぶデコごはんレシピ集 中村 陽子著 / 『忙しいママでもできる! 簡単ちよいデコごはん&お弁当』



辰巳出版
教養・娯楽

いつものごはんにひと手間加えて「ちよいデコ」ごはんにすれば、子どもの食事へのテンションがぐっとアップ! 忙しい毎日の中でも簡単に作れて、かわいいうちよいデコごはん&お弁当のレシピを紹介。子どもが喜んでくれるアイデアがいっぱいで、子育てや仕事、家事でてんてこ舞いのママにぜひ役立てていただきたいレシピ集です。

町生涯学習センター図書室のご利用について

■開館時間 午前9時～午後5時 ■休館日 毎週火曜日、年末年始 ■貸出冊数・期間 1人5冊まで、15日間

「あ ～、おもしろかった。」
これが、読了後最初の私の感想だった。

何気ない日常の中で、それぞれが学んだり悩んだりしながら、それでも楽しく生活を送っている。その中で、時には立ち止まって考えなければならない問題がやってくる。

でも、そっと周りに支えられ、元気に過ごす2人がある。いつの間にか、

今月の案内人



藤本 智美さん
(仁田子区)

戸村飯店に通うお客のような気持ちで読んでいた。私にも弟

が2人いて、

～ My Favorite Story ～

Read This Story!

私のおすすめ図書

『戸村飯店青春100連発』(瀬尾 まいこ著)

大阪の下町の中華料理店の兄弟は、性格も外見も正対で仲も悪い。それぞれの人生を歩もうというとき、次男に大きな転機がおとずれて…。

それぞれが別々の道に進んでいる。戸村兄弟と同じく、ベタベタ仲がいいわけでもない。

しかし、姉弟って、一つの「居場所」だなと感じることがある。

例えば、話し方が似ていると言われたり、同じ出来事で笑い合えたり…。

いつも一緒にいるわけではないが、何かつながっている。そんなことを思った。



「青春100連発」という言葉に一瞬ひるんでしまうが、読んでみれば何のその。自分の中学生、高校生時代にあったような葛藤や喜びがよみがえって、十分に楽しめる。

爽快な読後感で、温かい気持ちになれる1冊。これが、瀬尾マジック!! 大人にもおすすめの本である。

Public Hall

町公民館からのお知らせと話題

▶町公民館からのご案内

町民大学「公演・閉講式」

- 日時
3月27日(月) 午前10時
- 会場
町生涯学習センター・ホール
- 内容
・公演会
松尾凌汰さん(平成音楽大学)
によるフルート独奏
- ・閉講式 午前11時

どなたでも参加できますので、皆さんお誘い合わせの上、たくさんの参加をお待ちしています。

- お問い合わせ先
町教育委員会公民館事務局
☎096-234-2447(内線321)

- 公民館講座や町民大学などに関する
お申し込み・お問い合わせ先
町教育委員会公民館事務局
☎096-234-2447(内線321)

▶子ども講座 「かるたとり」を開催

1月21日(土) 町農業研修センター「ろくじ館」で、公民館主催講座・子ども講座「かるたとり」を開催しました。



▲「犬棒かるた」を使ってかるたとりを楽しむ参加者たち

参加者は、ことわざをかるたにした「いろはかるた」の江戸編、「犬棒かるた」でかるたとり。読み手が句を読み上げると一緒に「あつた」と大声でかるた

をはじき、枚数がなくなると、顔が豊に着くほど真剣になって楽しみました。

映画「ちはやふる」などが人気の高まっている今、「犬棒かるた」から「百人一首」に興味を持ち、楽しんでくれるよう願いました。

▶公民館主催講座 郷土の歴史を訪ねて

1月24日(火)、近隣の歴史的遺産や文化財を訪ね先人の偉業を学ぶことを目的に、町公民館主催講座「郷土の歴史を訪ねて」を開催し26人が参加しました。



▲恐竜博物館で学芸員から展示物の説明を受ける参加者

御船町恐竜博物館では、学芸員から展示物の説明を聞きながら見学。甲佐町でも化石などの発見が多くあつているとの説明に参加者は驚いていました。

次に訪れた上益城消防本部では、近年の防災についての講話を受けた後、施設を見学。ロープ渡りの屋外訓練では、署員の機敏で軽やかな身のこなしに、参加者は拍手を送りました。

Human Rights

人権 ～心豊かに暮らすために～

■「災害と人権」②

災害発生時には、被災したすべての人に人権上の問題が生じる可能性があります。それは、安全に生活する権利や働く権利など、日ごろ保障されているはずの人権が侵害されるというものです。そうした中で、不安やストレスから他者への配慮が疎かになり、通常時より「災害弱者」「災害時要援護者」の方々への人権侵害が起きやすくなります。災害時、不安やストレスから余裕がなくなるのは当然のことで、仕方ありません。そうした状況になって、少し

でも他者への配慮を忘れないためには、「日ごろから人権意識を磨いておくこと」が大切です。以下では、「災害時の人権」についてまとめていきますので、熊本地震での経験を振り返りながら考えてみましょう。

●障がい者の人権

- ・避難所や仮設住宅に段差が多く、身体障がいの方が過ごしづらい。
- ・見た目には障がいがあると分からない方が必要な支援を受けられなかったり、特別な措置を取ってもらえなかったりする。

●子どもの人権

- ・緊急の情報や支援などの情報が日本語でしか知らされない。
 - ・宗教上の理由で、炊き出しや支援物資の食糧を食べられない。
 - ・文化や習慣の違いから、他の避難所での生活が難しいことがある。
 - 感染症・難病などをめぐる人権
 - ・必要な薬を受け取れなかったり、治療を受けられなかったりする。
 - ・病気によっては、避難所のような人の多いところへ避難できない(免疫力が弱いなど)。
- ～熊本県人権情報誌『ココロ通信』vol.36より引用～